

福山市オムニバスタウン計画の指定について

1. 計画策定の背景

福山市は、瀬戸内海沿岸の中央部に位置し、瀬戸内における有数の臨海工業都市として飛躍的に発展し、現在人口は約46万5千人、福山都市圏の約70%の人口が集中し、都市圏の中核都市として社会・経済活動の中心的な役割を担っている。

市民生活を支える公共交通としては、都市間移動を担う鉄道と都市内移動を担うバスがあるが、近年、モータリゼーションの進展や人口・市街地のドーナツ化が進み、マイカー依存度が高い都市構造となる中で、朝夕の通勤・通学時間帯を中心に交通渋滞が発生し、排気ガスの排出量の増加を招き、環境にも悪影響を及ぼしている。特に、交通渋滞による走行速度の低下は、バスの定時性を低下させ、利用者のバス離れやそれに伴う路線の休廃止・減便をまねき、利用者は10年間で半減（1,100万人→550万人）とその落ち込みが顕著となっている。

福山市オムニバスタウン計画では、「地域特性に応じた運行方法による市民・事業者・行政のみんなで支え育てる生活バス交通」を基本理念とし、ハード・ソフト両面からの総合的な利用促進策に取り組み、人・まち・環境にやさしい『バス』への利用転換を促すとともに、生活バス交通の維持・確保と中心市街地の活性化を図る効率的で利用しやすいバス路線体系の構築を目指している。

2. 計画期間

平成20年度～平成24年度の5か年計画

3. 主な施策

- (1) ゾーンバスシステムの導入によるバス路線の再編
- (2) 交通結節点の整備
- (3) 乗り継ぎターミナルの整備
- (4) 中心部循環路線の導入
- (5) バス接近表示システムの導入
- (6) ICバスカードの導入
- (7) ノンステップバスの導入

4. 事業概要

- (1) バス走行環境の改善
道路整備・交差点改良等：福山道路、一般国道2号（歩道整備）、福山沼隈道路等
- (2) バス交通円滑化のための交通施設等の整備・改善
 - ① 交通結節点の整備：JR福山駅前広場（南口）等
 - ② 乗り継ぎターミナルの整備
：東部市民センター付近（東部ゾーン）、JR松永駅南口（西部ゾーン）等
 - ③ パーク&バスライド、サイクル&バスライドの導入検討
- (3) バスの利便性等の向上
 - ① ゾーンバスシステムの導入・充実（東部・西部・北部・南部）
 - ② 中心部循環路線（JR福山駅周辺地区～内港周辺地区）の導入、バス路線の新設
 - ③ バス総合案内システムの導入（JR福山駅前広場（南口））
 - ④ バス接近表示システムの導入（10カ所程度を予定）
 - ⑤ ICバスカードの導入（PASPY）
 - ⑥ ノンステップバスの導入（33台）
 - ⑦ ハイグレードバス停の整備（広告付上屋50カ所程度を予定）
 - ⑧ 実証実験の実施：地域フィーダーバス、通勤快速バス
- (4) バスの社会的意義の認識高揚
 - ① 「ベスト運動（通年的ノーマイカーデー）」の推進
 - ② 公共交通の利用促進キャンペーンの実施

5. 施策により期待される主な効果

- (1) 道路整備・交差点改良等による交通渋滞の緩和
- (2) (1)及びゾーンバスシステムの導入並びに「ベスト運動」との連携によりバスの定時性を確保
- (3) 高齢化社会への対応
バリアフリー対応車両導入率63%
- (4) バス待ち環境の改善
JR福山駅前広場の案内所・待合所の整備、広告付バス停上屋の設置
- (5) ICバスカードの導入による乗降時間の短縮
- (6) 環境負荷の軽減
ベスト運動との連携による福山都市圏のピーク時CO₂排出量の約5%の低減